

9 家族介護の現状と求められる支援

つぎに利用者と未利用者の世話をしている家族の現状と求められる支援を見る。

<まとめ>

利用者・未利用者の主な介護者は、「夫または妻」「娘」の順に多くなっている。

介護にかかる時間は、「決まっていない」が4分の1を超える。

利用者の家族で、介護保険サービスを利用してから介護負担が軽減された人は約4割である。

家族介護に求められる支援策は、「介護に関する相談機能の充実」「家族など介護者のリフレッシュのための制度」などが多く挙げられた。

(1) 利用者・未利用者の家族介護の現状

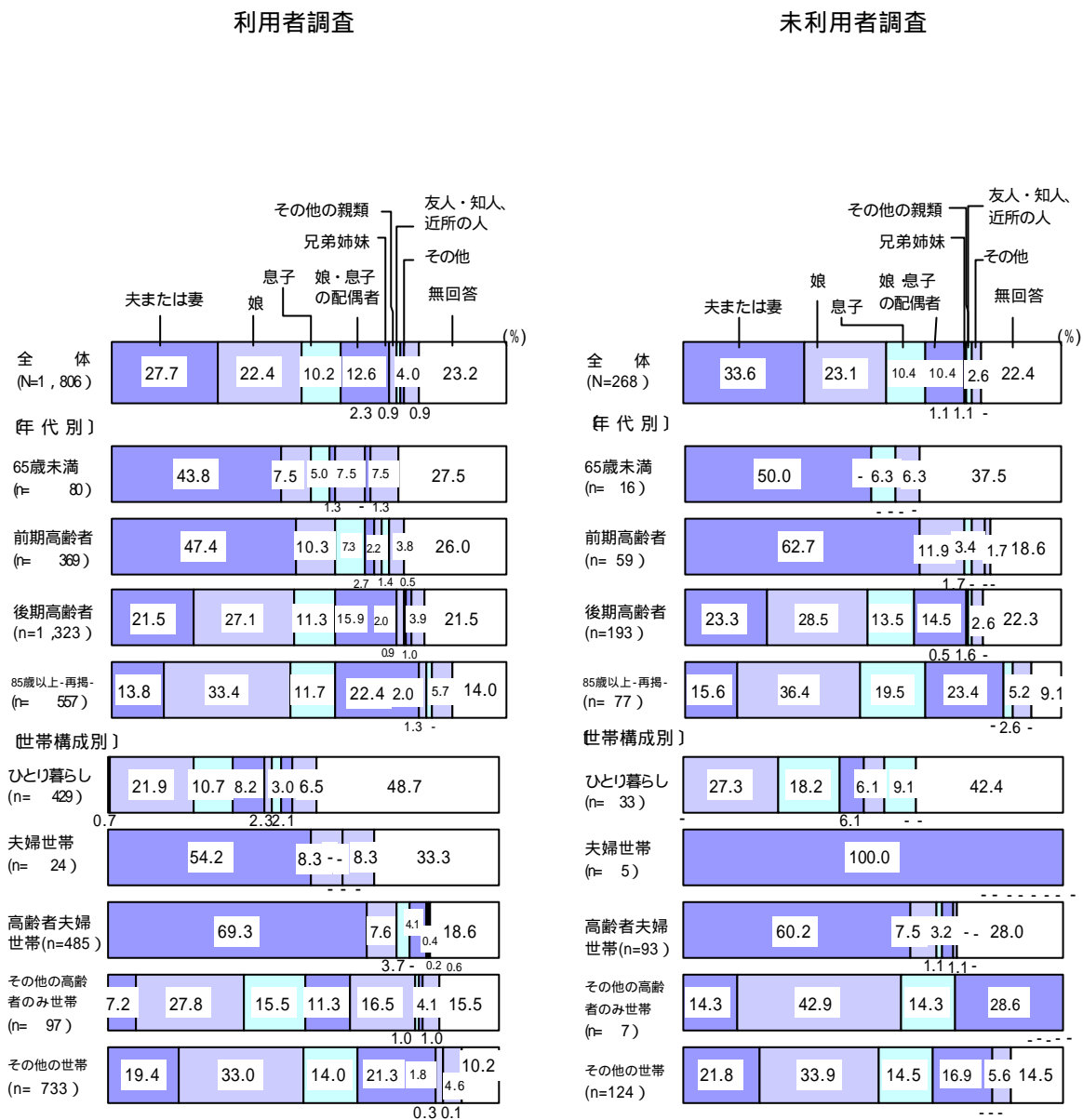
主な介護者

全体では利用者・未利用者ともに主な介護者は「夫または妻（利用者：27.7%、未利用者：33.6%）」と「娘（利用者：22.4%、未利用者：23.1%）」が多くなっている。

年代別に見ると、65歳未満と前期高齢者では「夫または妻」の割合が高く、特に未利用者では「夫または妻」と回答した人は半数を越えている。しかし、後期高齢者、特に本人の年齢が85歳以上になると、「夫または妻」という回答は減り「娘」の割合が高くなる。

世帯構成別に見ると、高齢者夫婦世帯では利用者・未利用者ともに「夫または妻」の割合が高くなっている（図表 - 9 - 1）。

図表 - 9 - 1 主な介護者
(利用者調査、未利用者調査 / 全体、年代別、世帯構成別)

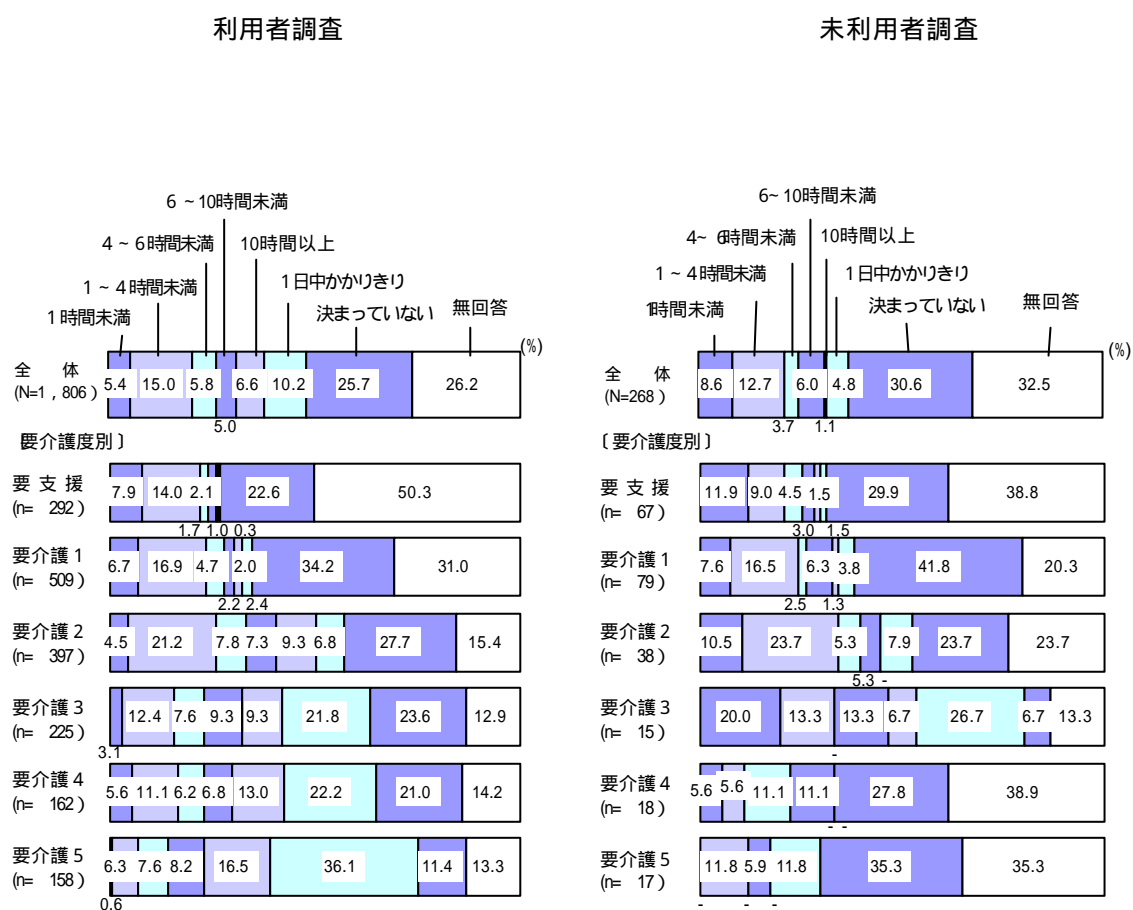


介護にかかる時間

介護にかかる時間をたずねたところ、利用者・未利用者ともに介護時間の分布に大きな違いは見られないが、未利用者の方が「決まっていない」の割合が若干高くなっている。

要介護度別に見ると、利用者の要支援と要介護1では「無回答」が多いが、要介護3以上では「1日中かかりきり」の割合が高くなり、要介護5では36.1%にのぼる。未利用者の要支援と要介護4・5でも「無回答」が多いが、要介護3では「1日中かかりきり」の割合が26.7%となっている(図表 - 9 - 2)

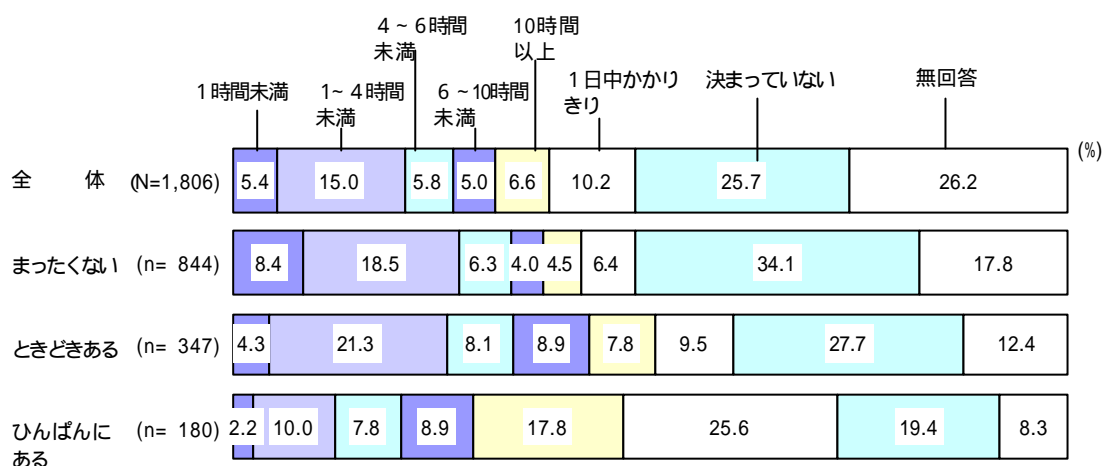
図表 - 9 - 2 介護にかかる時間
(利用者調査、未利用者調査 / 全体、要介護度別)



このうち利用者について、本人の痴呆の状況別に介護にかかる時間を分析した。

痴呆の症状が「まったくない」と回答している人は介護時間が「決まっていない」と回答した割合が高いが、痴呆の症状が「ひんぱんにある」と回答した人では、「1日中かかりきり(25.6%)」が4分の1、「10時間以上」も17.8%にのぼっている(図表 - 9 - 3)

図表 - 9 - 3 介護にかかる時間
(利用者調査 / 全体、本人の痴呆状況別)

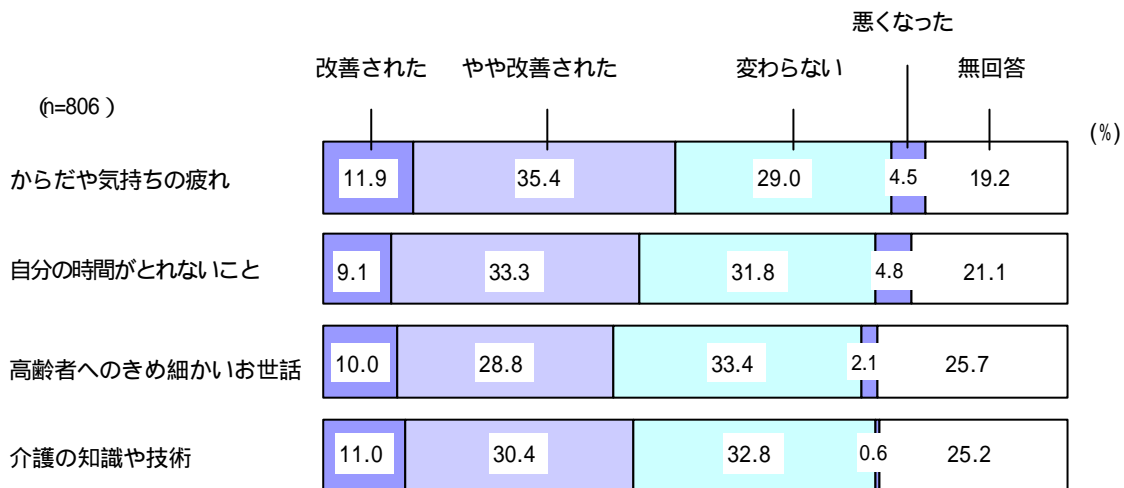


(2) 介護保険サービスを利用してからの介護負担の軽減

利用者の世話をしている家族に、介護保険サービスを利用してからの『からだや気持ちの疲れ』から『介護の知識や技術』の4項目について状況が改善したかどうかをたずねた。

いずれの項目でも「改善された」は1割前後、「やや改善された」は3割台で、介護保険サービスを利用してから約4割の方が介護負担が軽減されたとしている。一方、約3割の方が「変わらない」と回答している(図表 - 9 - 4)。

図表 - 9 - 4 介護保険サービスを利用してからの介護負担の軽減
(利用者調査《本人の家族が回答している人》全体)



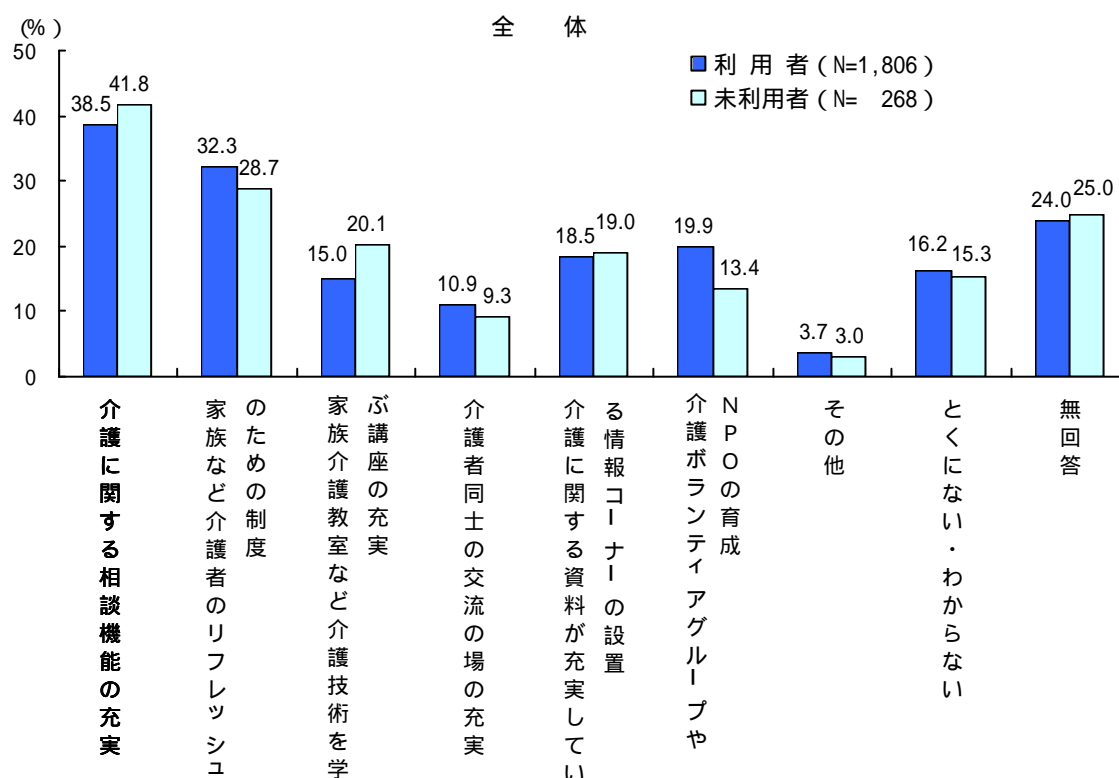
(3) 家族介護に求められる支援

利用者・未利用者に対し、家族介護に求められる支援策をたずねた。

利用者・未利用者ともに、「介護に関する相談機能の充実（利用者：38.5%、未利用者：41.8%）」、「家族など介護者のリフレッシュのための制度（利用者：32.3%、未利用者：28.7%）」などの割合が高くなっている。また、利用者では比較的「介護ボランティアグループやNPOの育成（19.9%）」の割合が、未利用者では「家族介護教室など介護技術を学ぶ講座の充実（20.1%）」の割合が高くなっている。

世帯構成別に見ると、高齢者夫婦世帯とその他の世帯（同居世帯）とでは、上位2位の項目こそ同じであるが、その割合にはかなりの差が見られる（図表 - 9 - 5）

図表 - 9 - 5 家族介護に求められる支援
（利用者調査、未利用者調査 / 全体、世帯構成別）



図表 - 9 - 5 家族介護に求められる支援
(利用者調査、未利用者調査 / 全体、世帯構成別)

